

未来を担う教師のための実践開発の場

第7回 開発実践報告会

- 日時：平成28年1月30日（土）8:45～16:30
- 会場：岐阜大学教育学部 講義棟1階 B107教室
- 住所：〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

●「開発実践報告会」は2年間の学修成果を評価し、学校や地域、教育委員会、または、広く一般の方に公開する場です。どなたでもどの時間からでも参加できます。申し込み・参加費は不要です。ぜひ、会場にお越しください。

【日程】

時間	行事・発表者
8:45～	開会行事
9:00～	報告Ⅰ：ストレートマスター（学部卒学生）
10:35～	報告Ⅱ：高等学校，特別支援学校派遣教員
13:00～	報告Ⅲ：中学校派遣教員
14:55～	報告Ⅳ：中学校派遣教員，小学校派遣教員
16:15～	閉会行事

※教職大学院に関する質問や相談がある方に対して、担当職員が説明します。受付にお申し出ください。

ミドルリーダーとして活躍する修了生



高校における「授業評価を方法とした教科会の組織開発」に取り組みました。授業評価を有効に活用し、教科会で意義やマネジメントについて活発に協議することで、同僚の貴重な経験則が個々の課題を解決していく足がかりとなることを確認しました。

有尾隆宏：岐阜県教育委員会
学校改善コース（H24年度修了）



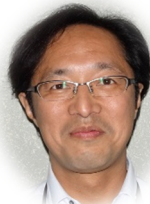
学校全体で道徳教育を進めていくために、道徳教育推進教師はどうあるべきかについて研究しました。そして、先生方の発想や個性を活かした道徳授業を推進しました。今も様々な連携を取りながら、道徳性を養う道徳科の授業開発を続けています。

大藏純子：笠松町立笠松小学校
教育臨床実践コース（H25年度修了）



新人教員としての授業力向上を願い教職大学院へ進学しました。生徒が主体的に数学を学ぶための授業を科学的に分析し、開発実践に取り組みました。今、その実践的研究を生かし、毎日の授業に先輩・同僚教員と楽しく向き合っています。

加藤信介：県立中津高等学校
授業開発コース（H25年度修了）



特別支援教育に携わる教員の専門性向上を目指し、コンセプチュアルスキル（省察・熟考等の内面的な思考様式）について研究を行いました。メンタリングを活用した研修の有効性が明らかになり、教員間の協働の大切さが確認できました。

守屋朋伸：岐阜県教育委員会
特別支援学校コース（H23年度修了）

●問い合わせ 岐阜大学教職大学院代表 平澤紀子 (hirasawa@gifu-u.ac.jp)

◆ 開会行事(8:45~9:00)

◆ 報告Ⅰ:ストレートマスター(9:00~10:20)

No.	氏名	種別	実習校	コース	題目	時間
1	今村 優希	SM	実習:岐阜県立大垣北高等学校	授業開発	歴史的思考力を養う世界史単元開発の在り方 -パフォーマンス課題を軸にして-	9:00 ~ 9:20
2	篠田 拓見	SM	実習:岐阜市立長良西小学校	授業開発	社会科授業における「振り返り」の明確化と場の設定 -小学校の歴史分野を通して-	9:20 ~ 9:40
3	武藤 明日香	SM	実習:岐阜市立長良西小学校	授業開発	話す能力を高める国語科の授業の開発 -パフォーマンス課題を活用した逆向き設計の授業づくりから-	9:40 ~ 10:00
4	木村 友里恵	SM	実習:岐阜市立加納小学校	教育臨床実践	子どもの学校適応の促進を目指した社会的情報処理への介入研究 -感情の役割に焦点つけた実践-	10:00 ~ 10:20

◆ 報告Ⅱ:高等学校・特別支援学校派遣教員(10:35~11:55)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
5	堀 裕邦	派遣	岐阜県立多治見高等学校	学校改善	学校の将来構想を具現化する協動的、共感的な教職員組織の開発	10:35 ~ 10:55
6	杉山 醇	派遣	岐阜県立岐山高等学校	授業開発	評価を核としたカリキュラム・マネジメント -より充実した探究型学習に向けて-	10:55 ~ 11:15
7	竹中 俊文	派遣	岐阜県立可児高等学校	授業開発	基礎学力とともに主体的な問題解決力を育成する授業の在り方 -アクティブラーニングの考え方を導入して-	11:15 ~ 11:35
8	旭 秀織	派遣	岐阜県立関特別支援学校	特別支援教育	特別支援学校の児童生徒の主体的な取組を促すための研修開発に関する研究 -重複障害学級担当教員を中心とした検討-	11:35 ~ 11:55

◆ 昼食(11:55~13:00)

◆ 報告Ⅲ:中学校派遣教員(13:00~14:40)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
9	市原 隆行	派遣	郡上市立八幡中学校	学校改善	中山間地域 郡上市におけるシティズンシップ教育の推進	13:00 ~ 13:20
10	野尻 政徳	派遣	下呂市立下呂中学校	学校改善	若手教員の指導力向上に寄与する研修リーダーの養成	13:20 ~ 13:40
11	伊藤 政之	派遣	恵那市立山岡中学校	授業開発	学校の小規模化状況における若手教員の授業力形成に資する中学校校内研究の開発実践	13:40 ~ 14:00
12	窪田 洋一	派遣	岐阜市立加納中学校	授業開発	メタ認知を育て、自ら学ぶ力を高める指導の在り方 -授業づくり・学習集団づくり・学習習慣づくりの3つの側面から-	14:00 ~ 14:20
13	水野 幸弘	派遣	池田町立池田中学校	授業開発	学習到達目標(CAN-DOリスト)の作成とそれを基にした解釈(Interpretation)を重視した授業の在り方	14:20 ~ 14:40

◆ 報告Ⅳ:中学校・小学校派遣教員(14:55~16:15)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
14	丹羽 紀一	派遣	多治見市立陶都中学校	教育臨床実践	特別な支援を必要とする生徒の道徳教育 -特別支援学級における道徳教育と教育相談の拡充を通して-	14:55 ~ 15:15
15	柳瀬 陽一	派遣	神戸町立神戸中学校	教育臨床実践	小中連携による問題行動・学校不適応の未然防止の在り方 -生徒指導コーディネーター(仮称)を中心として-	15:15 ~ 15:35
16	高橋 雅博	派遣	岐阜市立加納小学校	学校改善	小学校における「土曜日等の教育活動」のあり方	15:35 ~ 15:55
17	河内 新一	派遣	岐阜市立長良西小学校	教育臨床実践	メタ認知機能に焦点つけた自己調整学習方略への心理教育的介入研究 -授業および自宅学習を活用した総合的介入の提案-	15:55 ~ 16:15

○発表順：No. 1

○発表時間：9時00分～

○氏名：今村 優希

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



歴史的思考力を養う世界史単元開発の在り方
—パフォーマンス課題を軸にして—

【開発実践報告の要旨】

歴史的思考力とは、歴史的な出来事を単に過去に生じた事実として知るだけでなく、それらのつながりを把握し、多面的・多角的な視点から考察できる能力である。学習指導要領の中でもその育成が掲げられている一方、膨大な知識を必要とする入試への対応が中心となり、生徒の思考力育成に取り組んだ授業開発はあまり活発に行われていない。そこで、本開発実践では単元末において歴史的思考力を評価するパフォーマンス課題を中心とした逆向き設計の授業実践を通して、歴史的思考力を養う世界史単元開発の在り方について検討する。

○発表順：No. 2

○発表時間：9時20分～

○氏名：篠田 拓見

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



社会科授業における「振り返り」の明確化と場の設定
—小学校の歴史分野を通して—

【開発実践報告の要旨】

今次学習指導要領の中で、新たに「振り返り」活動が明記された。しかし、一単位時間における授業の中で、「振り返り」活動を実施することに困難さが見受けられる。また、その活動の教師や学習者の受けとめ方は様々であり、内容及びその表現方法も多様である。

そこで、本開発実践では小学校歴史分野における「振り返り」の場を明確にし、設定することで、児童の思考力・判断力・表現力を育み、自ら学ぶ意欲を高める授業改善の一助としたい。

○発表順：No. 3

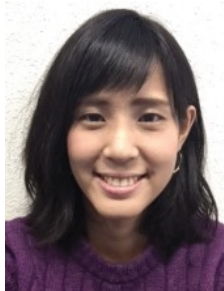
○発表時間：9時40分～

○氏名：武藤 明日香

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



話す能力を高める国語科の授業の開発
—パフォーマンス課題を活用した逆向き設計の授業づくりから—

【開発実践報告の要旨】

考えたことや経験したことを他者に適切に伝えることができない「話す能力」に課題のある児童生徒の姿を多く見る。人間関係を形成する上でも、「話す能力」を育てることは重要であり、特に、教科教育の基盤でもある国語科の授業において、どのように「話す能力」を高めるのが問われている。本開発実践では、国語科の授業を通して、他教科や日常生活に活用できるような「話す能力」を育むことをねらい、そのためにパフォーマンス課題やそれを活用した「逆向き設計」論による授業づくりを行う。

○発表順：No. 4

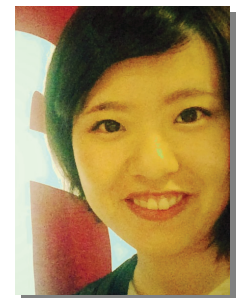
○発表時間：10時00分～

○氏名：木村 友里恵

○所属：ストレートマスター

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：



子どもの学校適応の促進を目指した
社会的情報処理への介入研究
—感情の役割に焦点づけた実践—

【開発実践報告の要旨】

本開発実践報告の目的は、社会的認知の誤りやゆがみを修正することで子どもの学校適応を促進することである。子どもが社会的問題場面に直面した時、感情が高まっている状態でも適切な情報を収集し、それに応じた解決策を選び、実行するという適切な情報処理を行うことができる、よい人間関係を築くことができる。本実践では小学校中・高学年児童を対象に、質問紙を行い、誤りやゆがみのあるステップを明らかにする。その結果を踏まえ、顕著な問題のみられるステップを改善する介入プログラムを開発実践する。

○発表順：No. 5

○発表時間：10時35分～

○氏名：堀 裕邦

○所属：岐阜県立多治見高等学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：



学校の将来構想を具現化する
協働的、共感的な教職員組織の開発

【開発実践報告の要旨】

高校を取り巻く状況の中で、少子化による中学校卒業予定者数の減少や生徒の多様化への対応として、魅力ある学校づくりが求められている。このためには、教職員が一丸となって取り組む必要があるが、アンケート等の調査によれば、本校の職員組織は同僚性、協働性において課題が見られることが判明した。

将来構想案の提案を契機として、その具体化の取組を通して協働的、共感的な教職員組織づくりを進めることで、教職員間で課題が共有され、学校の方向性が認識される。そして、教職員のアイデアを活かした将来構想を具体化するための取組とミドルアップダウンマネジメントを柱とする組織開発を進めていくことで、学校の活性化につながる開発実践とする。

○発表順：No. 7

○発表時間：11時15分～

○氏名：竹中 俊文

○所属：岐阜県立可児高等学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



基礎学力とともに主体的な問題解決力を育成する
授業の在り方
—アクティブラーニングの考え方を導入して—

【開発実践報告の要旨】

高校数学においては、知識・技能等の内容の習得を重視した講義型の授業の傾向が見られ、生徒の主体的に学ぶ意欲や態度、主体的に問題解決するための思考力や判断力等の育ちの低さが課題となっている。この課題を解決するために、学力の3つの要素をバランスよく育む授業での教師の役割と、生徒自身が主体的に身に付けるべき力を明確にしたアクティブラーニング型の学習活動モデルを構築し、それを基に授業の改善を図る。

○発表順：No. 6

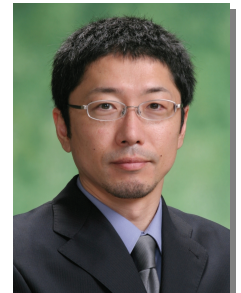
○発表時間：10時55分～

○氏名：杉山 醇

○所属：岐阜県立岐山高等学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



評価を核としたカリキュラム・マネジメント
—より充実した探究型学習に向けて—

【開発実践報告の要旨】

総合的な学習の時間での探究的な学習や課題研究においては、OECDのキー・コンピテンシーに示されている力を付けることなどを目的とされている。また、中央教育審議会では大学入試改革等が示され、これらの力は今後さらに重要となってくる。しかし、これらの力を客観的に測ることは難しい。そこで、本開発実践では以下の3点に取り組む。

- ① 付けたい力を測ることのできる評価手法の確立
- ② 評価結果を用いた改善案作成手順の開発
- ③ マネジメント・サイクルの勤務校での定着

○発表順：No. 8

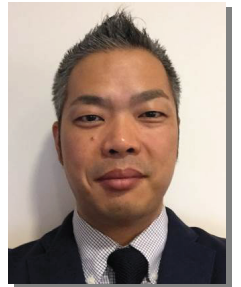
○発表時間：11時35分～

○氏名：旭 秀織

○所属：岐阜県立関特別支援学校

○コース：特別支援教育

○題目（テーマ）：



特別支援学校の児童生徒の主体的な取組を促すための
研修開発に関する研究
—重複障害学級担当教員を中心とした検討—

【開発実践報告の要旨】

特別支援教育においては、障害のある児童生徒の主体的な取組を支援することが求められている。とりわけ、重複障害児の場合は身体的な制約がある上に、コミュニケーションの困難さがあるため、子どもの主体的な取組が阻害される場面が少なくない。そこで本研究では、特別支援学校の重複障害学級担当教員を対象として、児童生徒の主体的な取組を支援するための評価項目を開発し、その評価項目を用いた研修効果の検討から、児童生徒の主体的な取組を促す支援に向けた研修を開発する。

○発表順：No. 9

○発表時間：13時00分～

○氏名：市原 隆行

○所属：郡上市立八幡中学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：



中山間地域郡上市におけるシティズンシップ教育の推進

【開発実践報告の要旨】

18歳の選挙権、道徳の教科化、地方創生などが、盛んに課題として取り上げられている今日、将来の地域を担う若者の育成、成熟した市民の育成が重要視されている。

故に、よりよい社会の形成に主体的にかかわるために必要な資質・能力を備えた生徒の育成が求められている。そこで、中学校3年間の総合的な学習の時間に、郷土教育、キャリア教育、シティズンシップ教育の内容を系統的に位置付け、市民としての資質・能力の育成のためのカリキュラム開発とそのマネジメントを行い、中学校におけるシティズンシップ教育推進モデルを提案する。

○発表順：No. 10

○発表時間：13時20分～

○氏名：野尻 政徳

○所属：下呂市立下呂中学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：



**若手教員の指導力向上に寄与する
研修リーダーの養成**

【開発実践報告の要旨】

本開発実践は、下呂市教育委員会及び下呂市校長会の連携協力のもと、下呂市内の中堅教員を対象として、第2次岐阜県教育ビジョンに示される「研修リーダー」の養成を図ることを目的とする。また、下呂市小中学校の教員を取り巻く現状から、中堅教員と若手教員を結びつけた体制作りや、中堅教員が講師となって実践する講習講座とそのカリキュラム開発等を通して、若手教員の実践的指導力の向上に寄与する研修リーダーの養成を図る。

○発表順：No. 11

○発表時間：13時40分～

○氏名：伊藤 政之

○所属：恵那市立山岡中学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



**学校の小規模化状況における若手教員の
授業力形成に資する中学校校内研究の開発実践**

【開発実践報告の要旨】

中山間地域における少子化・過疎化と、大量退職・大量採用による人的環境の変化等の状況において、若手教員は資質能力をいかに高めていったらよいのか。指導技術が伝承される機会の減少や、教科部会の不成立等の条件下で、小規模中学校は大きな課題を突き付けられている。本開発実践は、小規模中学校における若手教員の授業力形成に資する校内組織や研究の在り方を明らかにしようとするものである。本実践の中核を成す、教員が相互に教え合い学び合うコミュニティの編成と運営の具体的実践について報告し、その可能性と課題を考察する。

○発表順：No. 12

○発表時間：14時00分～

○氏名：窪田 洋一

○所属：岐阜市立加納中学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



**メタ認知を育て、自ら学ぶ力を高める指導の在り方
—授業づくり・学習集団づくり・学習習慣づくりの3つの側面から—**

【開発実践報告の要旨】

学力向上は喫緊の課題であるが、どんなことにつまずいているのかといった学習状況は生徒一人一人異なる。そのため、授業で自己の学習状況を客観視し、自らの課題を見出し、必要な学習を自己選択するなど自ら学ぶ力を高めることが、生徒一人一人の学力向上につながる考えた。つまり生徒のメタ認知を育て、自ら学ぶ力を高める指導の具現が求められているのである。本開発実践では授業づくり、学習集団づくり、学習習慣づくりの3つの側面から、これまでの指導を見直し、新しい指導の開発を提案する。

○発表順：No. 13

○発表時間：14時20分～

○氏名：水野 幸弘

○所属：池田町立池田中学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：



学習到達目標（CAN-DO リスト）の作成とそれを基にした解釈（Interpretation）を重視した授業の在り方

【開発実践報告の要旨】

英語教育では、学習到達目標を CAN-DO リストの形で作成することが求められている。そこで、その効果的な活用を模索するため、CAN-DO リストの自作と、それを基にしたコミュニケーション能力の根幹をなす解釈（Interpretation）を重視した授業開発に取り組んだ。本発表では、学習到達目標（CAN-DO リスト）と「単元指導計画」「パフォーマンス課題とルーブリック」「生徒作品の事前準備」を連動させながら、解釈（Interpretation）する力を育成してきた理論と実践について報告する。

○発表順：No. 15

○発表時間：15時15分～

○氏名：柳瀬 陽一

○所属：神戸町立神戸中学校

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：



小中連携による問題行動・学校不適応の未然防止の在り方—生徒指導コーディネーター（仮称）を中心として—

【開発実践報告の要旨】

学校不適応の問題として、中1ギャップや小学校4・5年生頃に児童生徒の発達上の段差がある可能性が指摘されている。そこで本開発実践では、小中連携を強化することで未然防止・早期発見・早期対応を推進し、義務教育9年間を見通した継続支援体制を充実させていく方策を検討する。そのために、中学校区内の児童生徒の様子を定期的に観察したり、校内支援体制をコーディネートしたりした。また、情報交換ツール等の見直しを図り、義務教育9年間を見通した継続支援体制のモデルを提示する。

○発表順：No. 14

○発表時間：14時55分～

○氏名：丹羽 紀一

○所属：多治見市立陶都中学校

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：



特別な支援を必要とする生徒の道徳教育—特別支援学級における道徳教育と教育相談の拡充を通して—

【開発実践報告の要旨】

特別な支援を必要とする生徒は対人関係や社会性で困難を抱えやすく、自己肯定感や自尊感情が低い傾向にある。彼らが人生における様々な問題を主体的に解決し、将来自立するための礎となる道徳性を身に付けることは今日的な課題である。本開発実践では、①問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れた特別支援学級の道徳授業、②道徳教育を軸とした交流及び共同学習、③道徳指導内容を意識した教育相談を検討する。特別な支援を必要とする生徒の道徳的な資質・能力を効果的に高めていくモデルを提示する。

○発表順：No. 16

○発表時間：15時35分～

○氏名：高橋 雅博

○所属：岐阜市立加納小学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：



小学校における「土曜日等の教育活動」のあり方

【開発実践報告の要旨】

岐阜市立の小学校では、平成26年度から年間10回の「土曜日等の教育活動」が実施されてきたが、教育内容や実施方法、家庭や地域との連携の在り方等の課題が明らかになってきている。実態を把握するために、勤務校を含めた実地調査や、児童生徒及び教職員を対象としたアンケート調査を実施したところ、「土曜日等の教育活動」を円滑に運営していくためのシステム構築や教育内容の開発が必要であることが明らかになった。

本開発実践の目的は、こうした「土曜日等の教育活動」についての実践モデルを構築することである。実践モデルは、「土曜日等の教育活動」に関する理念を確立し、そのねらいを明確にした上で、「運営システムの構築」と「教育活動プログラムの開発」の2点を柱として実践に取り組んだ。また、「開かれた学校づくり」の観点から、この教育活動を地域に広く公開し、地域人材の活用を目指すことに留意した。

○発表順：No. 17

○発表時間：15時55分～

○氏名：河内 新一

○所属：岐阜市立長良西小学校

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：



メタ認知機能に焦点づけた自己調整学習方略への心理教育的介入研究
—授業および自宅学習を活用した総合的介入の提案—

【開発実践報告の要旨】

本開発実践では、自己調整学習理論に基づき、児童の自ら学ぶ力を育成するために大切なメタ認知機能に焦点づけた心理教育的介入研究を行った。児童自ら学習過程を振り返り、学習到達状況を把握したり、自己の学習課題の改善に向けて目標を設定したりするなど、継続的に学習過程を自己評価する習慣を身に付けさせることで、メタ認知能力を中心とした自己調整学習方略が獲得され、それに伴って、学習に対する動機づけが向上し、主体的・能動的な学習が促進されることが分かってきた。